

はじめに

総合学術博物館では平成22年7月30日に、

- (1) 組織・運営関係
- (2) 博物館の活動関係（学術標本・展示・教育普及活動・データベース）
- (3) 博物館専任教員の研究活動
- (4) その他

にわたり、博物館発足（平成14年）以来初めて外部評価を行った。

以下にこの結果を報告する。

外部評価（評価・点検シート）

1. 組織・運営関係

観 点 ○組織・運営体制

○その他（施設設備の整備・活用、管理等）

評 価 4（水準を大きく上回っている）： 1人（10.0%）
3（水準を上回っている）： 5人（50.0%）
2（水準にある）： 4人（40.0%）
1（水準を下回る）： 0人（0.0%）

平均 2.7

意 見 ・ 提 言 等

人的配置、組織的位置付け、事務、研究、所蔵空間の配置（場所・設備）等で運営に当たり問題がある。

ただし、これらは博物館ではなく、大学全体の問題として対処する必要があると思われる。

待兼山修学館の立地、現在の展示スペースの雰囲気は良いと思うので、古い建物の活用とうまくバランスを保って有効な展示方法と保管設備の充実を図ってほしい。

予算面の話を聞いたら、もう少し館の置かれている状況が理解できたかもしれない。博物館運営が学内でどう見られているのか。

新館の計画が分かり、方向性が見えてきたのは、ひとつ安心できた。

人的、物的な制約の中で努力していることに敬意を表します。

部局に資料があることにより、資料の保存、活用等は部局との連携が極めて大切と考えます。（データベースについても）。資料部は兼任（48人）しているがうまくいっているか？

- ・ 全般的に各部局の協力が望まれるので博物館として各項目について働きかけが必要と考える。
- ・ 2002年の設立以降、人員を増やしたことは評価される。ただし、博物館の活動量を比較した時、それをサポートする事務はもとより、教員が足りない。
- ・ 兼任教員の活用を考える必要。
- ・ 分野にかたよりのあるが、研究・普及活動は多分野、多彩ですばらしい。文理融合が成り立っている。
- ・ 学生の活用は要検討。
- ・ バックヤードの確保と人員の課題
- ・ 専門家のかかわりと、収蔵物の整理の課題
- ・ 解説のボランティアのアイデアほしいと思います。

} 将来構想へ

市民も協力していただけたらと思いますし、
広報にもなるかもしれません。

- ・展示会を開催されても、苦勞される割に参加者の数が余りにも少い。学生を惹き込んで下さい。
- ・作るとなると一気に博物館をつくり上げられたのは素晴らしい。
- ・教員の流動性高いのは良好ですね。
- ・今後の資料が出てくるときどうするか。博物館の専門家がない。
- ・少人数でよく運営されていると思います。
- ・理スタッフの熱意も十分です。

専任、兼任教員相互の協力体制について、難しい状況があることはわかるが、もう少し明確な方針があっても良いのではないか。学芸員資格、大学院生教育と博物館活動とのかかわりも、もっと実践的な体制がとれるのではないかと思う。

施設設備に関しては、十分な状況とは言えないが、改善の方向は見られるので、今後に期待したい。

- ・展示が立派で分かり易い
- ・年齢に応じた展示配慮（小学生から成人迄を対象）
- ・実物で注目され易いものを強調されている。当方も勉強になりました。集客効果大
- ・他学（他業種・企業）との協働展示は効果は（「道修町くすりの資料館」の資料貸出は大歓迎です。）
- ・組織運営体制が良好（受付等の応接等）
- ・学内兼任教員をはじめ、学内の人的資源を積極的に巻き込む仕組みづくりに期待したい。

2. 博物館の活動関係

2-I. 学術標本

観 点 ○収集・保存等の体制

評 価 4(水準を大きく上回っている) : 0人(0.0%)
3(水準を上回っている) : 4人(40.0%)
2(水準にある) : 3人(30.0%)
1(水準を下回る) : 3人(30.0%)

平均 2.1

意見・提言等

設備的な問題が大きいと思う。それが解決されれば、外部や新たな収集も含めて充実すべきだと思う。

学内の部局に分散し、管理もまかせている学術標本の現状を、どうしたいのか。大収蔵庫を造る構想もないことから、各部局で管理する状況は当面変わらないと思われるが、データの整理など少しずつ手をつけられる部分はあるはず。総長室に働きかけて、毎年、文系・理系の1つずつぐらいを選んで標本の整理・データベース化に乗り出せないものか。

・収集・保存

基本的に博物館として収集・保存するなら収蔵施設は不十分。(不十分だから博物館として収集保存できないのか?部局で保存している場合、部局での資料の継続的把握は十分か?活用できるように整理されているか、必ずしも十分ではないのでは?)

・ここでも各部局の協力を得るための努力が必要である。

“ユニバーシティ・ミュージアム”の機能のスライドにあったように、“有形の学術標本を整理、保存し、公開展示”とあるため、収蔵室の整備は必要。寄贈、寄託資料が増えていることは良。

スペースが限られているため、今後増やす努力が必要と思われる。

また、今後のために受け入れ体制を整える必要もある。

企画・特別展により、収蔵物が増えていることは評価できる。

今後の高機能収蔵庫に期待。

各部署にまたがっていることは課題ではあるが、スペースなどの状況から、やむをえないと考えます。

ただデータベースの構築とともに、把握については、今後もデータを館内で閲覧できるスペースを屋上以外にも作ってみたらどうでしょう

・資料の借入りに制限がある?これは改善の要がある。

・資料の寄託を受けているのは良い。外部からもっとあっても良い。
本博物館の活動に応じて集まると考えられるのでこれからも頑張りたい。

・収蔵標本の収集、集中・保管体制が課題である。

・学部・研究科の歴史的「遺物」の掘りおこしが必要である。

・学部・研究科との連携をより密にすることが課題。

各部局に標本が分在している点については理解できるが、相互の連携や有効な活用方法については、改善の余地があるのではないかと思える。

・専門家の「体制」については「4」

・収集標本の領域の広がりがほしい
(他企業への「よびかけ」で可能になるのではないだろうか)

・学内の資料を博物館に集約するのではなく、いわば分散型で保管しようという考え方はひとつの見識として評価できる。

データベースの整備等、情報の集積が課題となろう。

2-Ⅱ. 展示（常設展）

観 点 ○展示のコンセプトおよびその具体化

評 価 4(水準を大きく上回っている) : 2人(20.0%)
3(水準を上回っている) : 7人(70.0%)
2(水準にある) : 1人(10.0%)
1(水準を下回る) : 0人(0.0%)

平均 3.1

意見・提言等

種類は若干少なく感じるが、見せ方は良いと思う。

目玉であるマチカネワニの展示（レプリカ、実物）のインパクトによって、来場者には興味深い常設展づくりに成功していると思う。大学草創期の歴史がやや地味な感じがするのと、考古系の展示にもうひと工夫があればとも思う。マチカネワニの宣伝をもっとできれば、来場者が増えるのでは。

「交流型ミュージアム」…知の集積、交流、ネットワーク

勝手なことを言えば「教養、デザイン力、国際性」の大学の目標とうまくつながっているか？

- ・バリアフリーになっていて、パネルキャプションも低い位置にあり子供にも対応できていて、評価できる。文章も短く、見やすい。
- ・各部屋のコンセプトもわかりやすい。
- ・唯一、導線がとりにくい。
- ・子どもの理解を助ける。リーフレットかワークシートなどがあればよいのかも。
- ・大人も説明しやすいかもしれません。

教員の研究に基づいて展示出来るのが良い。

企画展の内容が良い。

特展、叢書の発行もよくなされている。

一方展示に実物が少いことも事実で、充実して欲しい。

マチカネワニのタイプ展示は美事。ただし本物であることの宣伝がもうすこし必要。

・真空管コンピューターの展示は美事。ただし、これが後世のコンピューター科学に果たした重要な役割を宣伝することが必要。

展示が大学の教育、研究に根ざしたものであるということは十分に理解できる。その呈示の仕方として、対象年齢やそれに応じた見せ方、展示方法について、もう少し改善の余地があるのではないかと感じた。

常設展示の入替のサイクルは？

毎年1回？

- コンセプト 生命科学 } 優先順位は
- 環境科学 } どのようにして
- 宇宙科学 } 決めるのですか？
- etc.

パネルの中心線は、少なくとも15cm程度下げたほうが、観客にやさしいのでは。

2-Ⅲ. 展示（特別展・企画展）

観 点 ○企画内容

○広報及びその成果

評 価 4(水準を大きく上回っている) : 5人(50.0%)
 3(水準を上回っている) : 5人(50.0%)
 2(水準にある) : 0人(0.0%)
 1(水準を下回る) : 0人(0.0%)

平均 3.5

意 見 ・ 提 言 等

企画の着眼点と分野（文理）を越えたふくらませ方が素晴らしいと思う。

リピーターを増やす観点から企画展、特別展の充実が望ましいと思う。

学術” 総合博物館の名にふさわしいのは、研究成果がきちんと反映した企画展づくりでしょう。文理融合が見事だった「漆」の企画展はさすがです。

私の働く新聞社の例で言うと、プレスリリースは、複数の部署に届く方が、漏れがないです。どんどん声をかけて下さい。

年2-3回の企画展は負荷が多く御苦勞様です。

部局の協力で先端研究の展示もできると大学の宣伝にもなって良いのではないかと？

企画内容は言うことはありません。

- ・すばらしいの一言、展示テーマは創造力をかきたて、内容も面白い。
 人文地理、経済学、薬学、歴史、観光学など着眼点が良い。
 難しいテーマを面白くしあげている。叢書もすばらしい。

- ・広報の方法には、少し課題が残る。

- ・年2回は教員の研究活動に影響がないか心配、年1回でもいいのでは？

- ・入館者は今のところ多くはないが、徐々に増えており、今後に期待できる。

- ・企画展・特別展はよく見させていただいていますが、どれもすばらしかったです。

- ・今回の橋爪先生の説明から配置などの意図もうかがい、見方が浅かったと反省しています。
 意図をどうしたら伝えることができるか、むつかしいと思いますが、よい展示をしていただいとって思っています。アンケートなどの傾向はどうなっていますか。

展覧会のカタログとして、研究成果を刊行したのが良い。（大大阪など）

- ・企画内容は立派である。
 欲を言えば、阪大の先端研究の「展示」が欲しい。

- ・叢書の継続的な刊行は立派である

特別展、企画展ともに「地域に生き」と文理融合という基本方針を十分に実現しているものであり、評価できる。歴史博物館との連携により、展覧会にひろがりを持たせている点も、大阪からの発信として評価すべき点だと考える。

“積極的”に広報を狙ってはどうか。少し宣伝不足なのではないでしょうか。

- ・きわめて意欲的な展示活動で高く評価できる。
- ・今後は学内の人的資源をさらに活用する方向を探られてはどうだろう。

2-IV. 教育普及活動

観 点 ○企画内容の工夫

○社会貢献・地域連携の状況

○その成果

評 価 4(水準を大きく上回っている) : 2人(20.0%)

3(水準を上回っている) : 5人(50.0%)

2(水準にある) : 3人(30.0%)

1(水準を下回る) : 0人(0.0%)

平均 2.9

意見・提言等

豊中、大阪にとっての全体の中での大学博物館の役割を考えていただければと思う。

サイエンスカフェは好スタートを切ったと思います。教員の方々の意識を変える効果もあったでしょう。サイエンスカフェの参加者が結構遠方であることも考えると、地域の小学校を対象にした活動も、豊中市に限らず、吹田市や大阪市あたりまで広げてPRしてもよいかと思います。

様々な事業活動を展開してる努力を多とします。

- ・教育普及としては、学内外を対象にする必要がある。学外（一般）に向けたサイエンスカフェは良いが、学内（学生）に向けた活動が必要である。サイエンスカフェの開催日にかたよりがあるように見える。ただ回数は多い（～25回／年）。
- ・近くの博物館との連携も良い。
- ・普及について努力されていると思います。
- ・地域連携についても水準以上だと感じています。

カフェにおいて

- ・会話がはずむ
 - ・文系テーマの人気
- ）はぜひ広げて下さい。
- ・実利的な方が多いということですか。
 - ・物を考える人というのは多数派ではおられません。
それでも失望せず頑張ってください。
 - ・一般の科学館 科学センターのような活動（小学生相手）が必要か？

よくやっておられると思います。

サイエンスカフェの実践は、大学博物館ならではの活動として見直すべき点が多く、評価できる。学校教育との関わりという点ではいまだ十分とは言えない面があるが、社会貢献、地域連携という点でも、着実に成果はあげているように思われる。

必ずしも一般の“民意”を努力して吸収することは必要ではないと考えます。

社会貢献についても然りです。

在阪の企業と協働で企画することで社会貢献につながる内容が生まれると思います。

さらに活発な展開を期待します。

2-V. データベース

観 点 ○データベースの絶対量
○データベースの活用法

評 価 4(水準を大きく上回っている) : 1人(10.0%)
3(水準を上回っている) : 3人(30.0%)
2(水準にある) : 4人(40.0%)
1(水準を下回る) : 2人(20.0%)

平均 2.3

意見・提言等

あとは充実することが重要だと思う。

著作権の話や、セキュリティについてももう少し伺いたかった。

基本的に部局に資料がある状況の中で、データベースの構築は資料の保存活用にとって極めて大切。

データベースの作成を博物館で全てできるとは思わないが、部局への呼びかけ等対応が必要ではないか。

利用・管理しやすいよう構築されている。今後の方向性や問題点(課題)も挙げられており、将来の管理運営も安心できる。どこのDBも同じだが、継続的なデータ入力が課題。

- ・データ数 19,000 が多いのか少ないかは別にして活用についての周知はどうでしょうか。非公開は6万点
- ・対象にあわせた解説の工夫、子ども向けの解説などあればよい。
- ・データベースの閲覧のスペースを屋上以外に作ってはと考えます。

国内だけのアクセスでよいか。文系の資料は外国から要請のないものが多いと思うが。

いうことがありません。

データベースに関しては、準備段階があり、十分に活用されているとは思えなかった。今後の整備活用に期待したい。人的、時間的に負担が大きいことは想像できるが。

データベースの活用性については「2」でしょうか？(活用出来ない)

学内DBの横断検索が可能になることを期待します。

3. 博物館専任教員の研究活動

観 点 ○研究活動の実施状況
○研究活動の状況

評 価 4(水準を大きく上回っている) : 4人(40.0%)
3(水準を上回っている) : 4人(40.0%)
2(水準にある) : 2人(20.0%)
1(水準を下回る) : 0人(0.0%)

平均 3.2

意見・提言等

研究体制の問題、分野横断的な役割に期待したい。

研究者としての側面と、博物館員としての側面の両面があり、苦勞がよく分かりました。

特に言うことはありません。

- ・各教員の研究は素晴らしい。国際誌に論文が多い。
- ・キャンパス発の研究(タンポポ)は、多分野に渡ったもので、今後のさらなる発展が期待できる。

横断的な研究の一端をのぞかせていただいたと思います。

今後このような研究が領域を超えて進められていくべきだと思っています。

- ・博物館協議会を開催されたことは良い。
- ・館員の科研費を獲得するなどよく頑張っているのは良い。
- ・教育賞を獲得されたことは素晴らしいと思う。

十分以上だと思います。

専門分野によっては私の理解できない分野もあるが、理解できる範囲においては、研究活動が十分に進められており、それが博物館の活動ともうまくリンクしているという印象を受けた。

館長との兼務は大変だと思いますがご健闘をお祈りします。

4. その他

意見・提言等

大学博物館の特徴を充分考えられていると思う。これまで通り継続的に役割を果たしていただければと思う。

専従者と予算の確保へ向けて、知恵を出し合える場があればよいのに、と思いました。大学を動かす力になれるように。

また、認知度アップの点からは、マスコミ以外にも、発信力を持った人をどんどん呼び寄せるべきです。招待日でも、パーティーでも、意見交換会でも何でもよいので、関西の色々な分野の人に足を運んでもらえるイベントを開いてはどうでしょうか。

- ・収蔵庫構想及び実現可能性があるのは安心しました。
- ・待兼山をフィールドワークとして、子ども達を博物館活動へ巻き込む構想もあったような気がします。安全面での問題もあるとは思いますが、いかがでしょうか？
- ・人的配置については、できるだけ早く実現してほしい。教員への負担が心配。
- ・各部局との連携、学生利用の活性、認知度はどの大学博物館もかかえている問題。もう少し具体的な対策を練る必要がある。

将来構想として大きなスペースを考える中で、私見ですが自治体と共同スペースを構想されたと常々思っています。またぜひ待兼山をとり入れた博物館の構想を進めていただけたらと考えています。

収蔵の物は不便でも出来るだけ確保して下さい。いざとなつてすぐに手に入るものではありませんので。

今回の評価委で博物館について大いに学びました。

ただ広範で数多くの資料がありましたので、少しついてゆくのも難しいくらいです。可能なら前もって配布していただければ少し目を通して、準備もできたかと思います。ご一考下さいませ。

科学教育の学位が取れることを目指して下さい。

- ・教員（院生を含む）の研究室を集中させられるように。
- ・標本の一括管理にむけて努力されるように。
以上、あたりまえのことですが。
- ・院生が、収蔵品を使って研究論文をかけるようになればいいと思います。

経験不足のため橋爪先生による将来構想、設計図の適否判断は出来ません。

- 博物館の活動に、企画立案の段階から学生を巻き込む工夫をされることを期待します。
- 素敵なカフェの併設は大きなメリットだと思います。ますますの活用を。

外部評価委員会委員名簿

氏 名	職 名	所 属
井 上 和 彦	事務局長	京のアジェンダ21フォーラム
臼 倉 恒 介	事業本部 本部長補佐	朝日新聞社大阪本社
北 見 耕 一	常務理事	東京工芸大学
小 林 快 次	准教授	北海道大学総合博物館
十 河 秀 敏	校長	豊中市立野畑小学校
高 橋 憲 明	館長	大阪市立科学館
中 坊 徹 次	教授	京都大学総合博物館
並 木 誠 士	館長	京都工芸繊維大学美術工芸資料館
宮 本 義 夫	館長	くすりの道修町資料館
吉 田 憲 司	教授	国立民族学博物館
脇 田 修	館長	大阪歴史博物館